

準師範試験実施要項

▽第七十一次漢字部・かな部課題

○漢字部 次の作品二点（何れも半切35cm×135cmに揮毫）を提出する。

・規定《書体 行草書》

百種芳心歸碧草 五更殘夢隨春流

（温訓）

讀||百種の芳心碧草に歸り 五更の殘夢春流に隨う

註||多くの芳しい心を抱いてみどり色の草が伸び、夜明け方に見る夢は春の川の流れに任せる。●芳心||美しい心。●碧草||みどり色の草。●五更||一夜を五区分した第五の時刻。午前四時ごろ。

・臨書 王羲之「集王聖教序」 十五字

至言於先聖受真教於上賢探蹟妙門

讀||至言を先聖より、真教を上賢より受く。妙門を探蹟し、

○かな部 次の作品二点（半切35cm×135cmに揮毫）を提出する。

・規定《書体自由》

今はただ思ひ絶えなむとばかりを 人づてならでいふよしもがな
（左京大夫道雅）

註||今となつては、あなたを忘れて諦めしかないのだ、ということだけでも人を介してではなく、直接おあいしてお伝えする方法が欲しいものです。

・臨書 高野切第三種（伝 紀貫之）

きみがおもひゆきとつもらばたのまれずはるよりのちはあらじとおもへば

▽第四十一次詩文書部課題

次の作品二点（何れも半切35cm×135cmに揮毫）を提出。※形式は縦作品に限る。

・規定《原文を尊重すること》

鶏頭や汽車を見る村童（大谷句仙）

註||「鶏頭」鶏頭がもえている。傍らに村の子が野を走る汽車を物珍しげに見ている、という素朴な風景の句である。

・臨書 張猛龍 五字

涼州武宣王大

讀||涼州武宣王

― 受験についての注意 ―

一、受験資格 漢字・かな・詩文書とも六段。かつ満十八才以上で『日本書道院 展出品経験者』（二〇〇四年四月一日生まれまで認める）。

一、受験料 六千円（漢字・かな・詩文書の別）受験料は作品と別封とし、郵便振替にて同時に本院宛に送付のこと。

一、日本書道院展に一回以上出品の者（部門不問）。第71回展出品も可。

一、切 四月二十日 発表六月号

一、作品には申請書に貼付の出品票を使用して六段になった年月（日本書道誌発表の月）を必ず記入して添付すること。又、作品の左下隅にも同じく鉛筆で段位・支部名・氏名を記入のこと。

一、不合格者（規定違反も同じ）はその氏名を発表しない。

一、受験作品は白画仙紙を用い、準師範受験申請書を作品と共に提出のこと。また、封書には必ず「準師範応募」と朱書のこと。

一、準師範受験申請書は、返信料八十四円切手を添えて本部へ請求のこと。提出した作品は一切返却しない。

○月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

○出品作品には雅印押印のこと。

○師範受験時には日本書道院展出品が二回以上必要となる。受験の際は注意すること。

▽第十三次硬筆部準師範課題

・規定

剣と筆とをとり持ちて一たび起たば何事か人世の偉業成らざらん。

・臨書 蘭亭序（王羲之） 十六字

於己、快然自足、不知老之將至、及其所之

讀||己れに得るに當つては、快然として自から足り、老の將に至らんとするを知らず。其の之く所

註||気持ちよく満足し、老いてゆくことにも気づかない。その行きつく所に

一、受験資格 六段

一、受験料 四千円

一、準師範受験申請書は、返信料八十四円切手を添えて本部へ請求のこと。

一、切 四月二十日 発表六月号

一、作品には申請書に貼付の出品票を使用して六段になった年月（日本書道誌発表の月）を必ず記入して添付すること。また、封書には必ず「準師範応募」と朱書のこと。

○月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

昇段・級試験実施要項

▽第一三〇回漢字部・かな部課題

○第一部 「半切35cm×135cm」

次の漢字又はかな（各書体自由）を縦に揮毫したものの一点を提出。

漢字部

誰言春色從東到 露暖南枝花始開

（菅原文時）

読||誰か言う春色東より到ると 露暖かにして南枝花始めて開く

註||だれが言ったのであろうか、春は東方からやってくると。
（大庾嶺の梅は）露も暖かな南側の枝から花を開いているのに。

かな部

あらざらむこの世のほかの思ひ出にいまひとたびの逢ふこともがな（和泉式部）

註||病が重くて私の命はもう長くはないと思います。あの世での思い出に、今一度あなたとお逢いしたいものです。

一、受験資格

漢字・かなとも二級以上のもの

一、受験料

一点につき 三千元。成績により六段以下の相当級に編入する。

②漢字・かな受験者の事情により昇段試験の課題（漢字・かな）を半切1-2（35cm×68cm）に二点（形式を変えるか縦・横にする）揮毫しても受験することができる。但し、現在二級・一級・初段・二段の者は一点でもよい。

○第二部「半紙」次の漢字（楷書）又はかな（書体自由）を揮毫したものの一点

・漢字部

和氣致祥（劉向）

読||わきししょうをいたす

註||和氣は吉祥をもたらす。

・かな部

霧しぐれ富士をみぬ日ぞ面白き（松尾芭蕉）

註||「霧しぐれ」甲子吟行の折、箱根の関での吟。霧が時雨の降るよ
うに深く立ち込め富士は見えないがそれはそれでまた一興である
の意。

一、受験資格

漢字・かなとも二級以下のもの「漢字作品には支部名・段級・氏名（号）を競書と同じく筆によって揮毫する。かなの場合は名（号）又は雅印を捺した上に、作品左下隅にも鉛筆で段級と支部名、姓号を記入する。」

一、受験料

一点につき、千円。成績により一級以下の相当級に編入する。

▽第四十一回詩文書部課題

○第一部 「半切」

次の俳句（原文を尊重すること）半切35cm×135cmに揮毫したものの一点
※形式は縦作品に限る。

・竹林や夜寒のみのちの右ひだり（芥川龍之介）

註||「夜寒」うっそうと繁った竹林の中を、一人静かに散策している。何となくはればれとした気分の中にも、心の引き締まるような秋の冷気を感じられる句。

一、受験資格

二級以上のもの

一、受験料

一点につき、三千元。成績により六段以下の相当級に編入する。

②詩文書受験者の事情により昇段試験の課題を半切1-2（35cm×68cm）に二点（形式を変えるか縦・横にする）揮毫しても受験することができる。但し、現在二級・一級・初段・二段の者は一点でもよい。

○第二部「半紙」次の俳句（原文を尊重すること）を揮毫したものの一点

※形式は縦作品に限る。

・古郷は雲の先也秋の暮（小林一茶）

註||「秋の暮」秋の夕暮、ふと故郷のことが思われる。空に漂う雲の遙か先にふるさととの地があるのだ、の意。

一、受験資格

二級以下のもの

一、受験料

一点につき、千円。成績により一級以下の相当級に編入する。

― 出品についての注意 ―

一、×切 四月二十日 発表六月号

一、作品には四月号発表の競書成績の段級と支部名又は府県名、氏名又は号を書いた小票（たて11センチ×よこ4センチ・競書用出品券使用可）を作品の左下に貼付する。又作品左下隅にも同じく鉛筆で段級・支部名・氏名を記入のこと。「級の無いものは新とすること」

一、一級以上のものは第一部「半切」へ出品のこと。

一、各部で昇級できなかったものは氏名を発表しない。（規定違反も同じ）

一、昇級試験の作品は競書作品と別にし、必ず封書に「昇試」と朱書する。

一、受験料は郵便振替にて作品と同時に本院宛に送付のこと。

一、提出した作品は一切返却しない。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

◎出品作品には雅印押印の習慣をつけること。

硬筆部・昇段・級試験実施要項

▼第十五回

○応用部 次の課題を「硬筆用紙」に書いたもの一点。

・空前絶後のダメージを受けた書道業界コロナ禍の解決策も書の世界にある。

一、受験資格 一級以上のもの 作品には支部名・段級・氏名(号)を競書と

同じく硬筆用紙に書く。

一、受験料 一点につき、二千元。成績により六段以下の相当級に編入する。

○基礎部 次の課題を「硬筆用紙」に書いたもの一点。

・コロナ禍で半年も書展は軒並中止や延期に自粛や在宅も望まれた。

一、受験資格 二級以下のもの 作品には支部名・級・氏名(号)を競書と同

じく硬筆用紙に書く。

一、受験料 一点につき、千円。成績により一級以下の相当級に編入する。

― 出品についての注意 ―

一、〆切 四月二十日 発表六月号

一、作品には四月号発表の競書成績の段級と支部名又は府県名、氏名又は号を書いた硬筆用紙に記入し、硬筆用紙内の()内に「昇試」と朱書する。

【級のないものは新とすること】

一、一級以上のものは応用部へ出品のこと。

一、各部で昇級できなかったものは氏名を発表しない(規定違反も同じ)。

一、昇級試験の作品は競書作品と別にし、必ず封書に「昇試」と朱書する。

一、受験料は郵便振替にて作品と同時に本院宛に送付のこと。

一、提出した作品は一切返却しない。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

第13回「日本書道院同人展」開催

会場 フェニックスホール(紙パルプ会館)
〒104-8139 中央区銀座3-9-11
※東京メトロ「銀座駅」A12出口

会期 令和3年11月23日(火・祝)～28日(日)
午前10時～午後6時(最終日午後4時閉館)

本院同人による「半切サイズ」の作品を中心とした展覧会です。漢字・かな・詩文書合わせて56点の作品を展示します。100人展・選抜展と併せてご観覧ください。

出品者 ◎…優秀賞

<p>漢字</p> <p>安孫子窓月 新井榮花 飯坂礼子 石山祥香 ◎伊藤澄枝 ◎井上蘭雪 ◎江藤和雅 江本紀子 神村信行 木村俊六</p>	<p>小松扇水 坂井如静 笹川妙子 ◎笹木朋華 須藤木萌 高尾順子 寺谷考子 前井田紫 松田本千 丸山博</p>	<p>吉井千扇 ◎渡邊迦萌 渡辺稀</p>	<p>かな</p> <p>石井喜祥 池慶舟 石田祐幸 稲永桃幸 井上理恵 ◎今井秋花 上大原虹輝 大嶋翠舟 北野瑞雪 栗村聖利 剣持由香 駒林燈</p>	<p>詩文書</p> <p>會津翠鳴 ◎佐藤裕月 高岸翠光 田中恵秋</p> <p>紫峯子隆祥 玉玉千政香 登藤田虫井田桃 ◎左佐真多玉土成藤山吉</p>
---	--	-------------------------------	---	--

第七十一次漢字部

準師範試験臨書課題

「集王聖教序」王羲之 十五字

至言於先聖受真教於上賢探蹟妙門

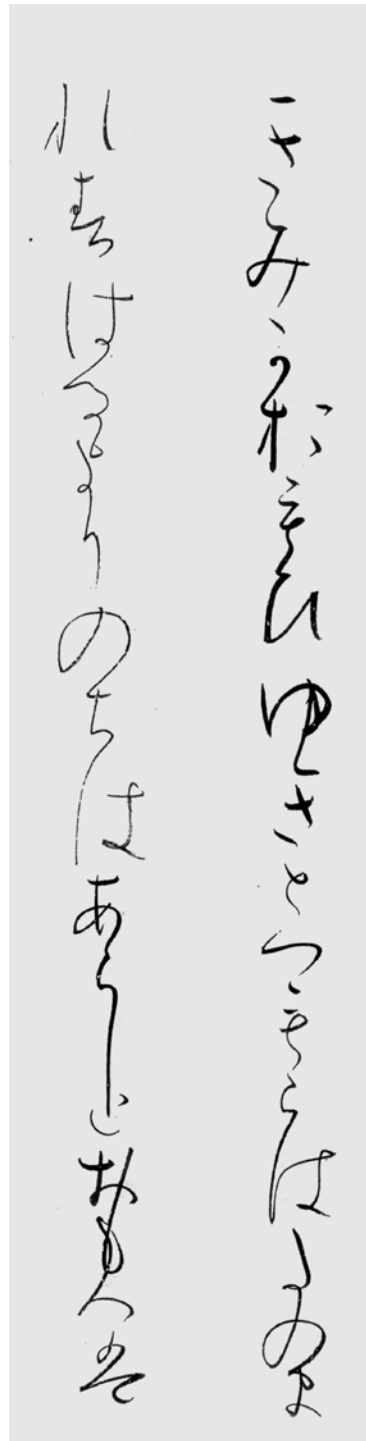


第七十一次かな部

準師範試験臨書課題

「高野切第三種」 伝紀貫之

きみ^{可於}がおもひゆきとつも^毛らばたのま^多
れず^春はるよりのちはあらじとおもへば^盤



第四十一次詩文書部

準師範試験臨書課題

「張猛龍碑」 五字

涼州武宣王

